

頭でF<は> 図化思考法 - 齋藤孝

経済の勢いで流れる情報は、それに正確ではなかった。
しかし一方で、そのほとんどの人が自分の外側を流れるだけであり、決して自分の思考と交わらずに流れていく。ここに驚かされた。 p.21

構造主義の発想は、そういう時代、^{その}趨勢と合った。違う。
自分の前を流れて行く情報の川を瀑と見て、流れとくっついていこうとしようとした。そして、自分の情報の根源に目を止めて、共通する構造を機能的に見極めようとした。

構造を見つけたら、それは簡単にはなかな。
構造主義は歴史的なことから現代的な教訓を引き出すために存在する。その時空は隔たったことだから、共通する構造を見つけたら、その思考は相当鋭い。

そのころ生きた時代や場所は遠く離れていようが、そこにはなにか、という構造を見出す。それは、「人間はこんな風に生きているんだ」と気づかせることだ。

構造主義人類学の祖：フランスの思想化のロード・レヴィ・ストロース

図解と図には異なる

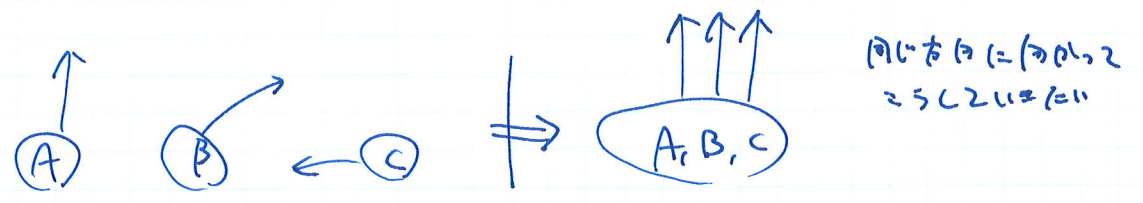
図解：すでにできあがったものを人に見せるための説明法にすぎない。
思考：新しい図を活用する。これが重要。



「なるべし」には2つあり。

- ① 近いものをとらえてみる
- ② 離れていっているものを近づけてみる

図化思考のいい点は「前向きな構造」にあり



フランスの哲学者メルロ・ポンティは言葉を「語る言葉」と「語られた言葉」に区別した。
精神病理学者の木村敏氏は、意味が伝わる場所を「良い」と表現した。

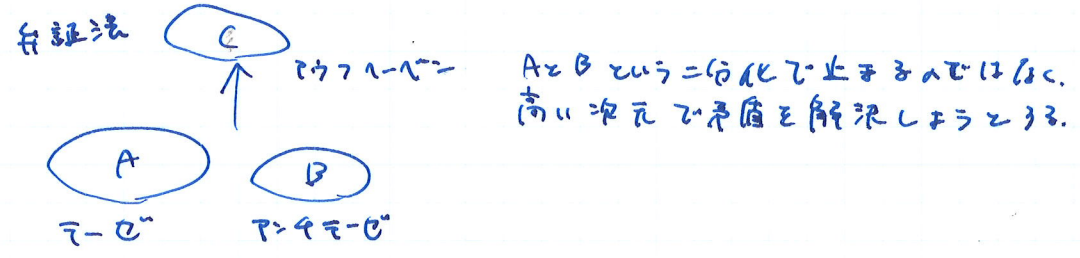
人間同士の「良い」で一番緊張感があるのは、理解する時より意思決定するとき。
意思決定のために互いが描いている自分の意識だ。

図化は積極的に描いて自分の存在をどうとらえるか、その構えで決まってくる。
大抵の結果を説明する。
全体的俯瞰で、描画意識を高めることが必要。

図には「なるべし」で頭で止まるな。
図は構図を示す。理解の道筋でいい。上空から見た図でいい。

図化を「ついでに」に「イン」は、^{代わり}他人の描きかたを。
→ 繁雑なことに「イン」で会話ができる。

図を描くときに話をすると、図を媒介にして相互に理解が深まり、新しい発見が生まれる。図は、自分の話をしている間に、もう一歩、この思いを、他人のいいツールにする。図を共有することで、同時に相互理解が深まる。



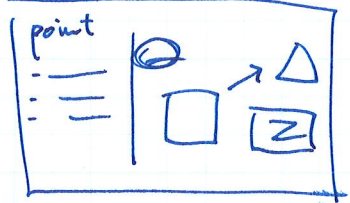
与えることの重要な要素は「腑合」と「符合」である。
腑合：同じことをお互いに話しているけれど、実は違っている人々がいる。同じに見えること、お互いの相違点を見つけていくこと。
符合：「違うことをお互いに話しているけれど、結局は同じじゃないか」と、違って見えること、お互いの共通点を見つけていくこと。

論点を一致させて問題を整理すること。これが重要。これは「意思決定」だ。

腑合と符合の過程によって決断が見えてくる。

A4 (枠)に書く

思考はプロセスを重視してこそ、いい結論が導ける



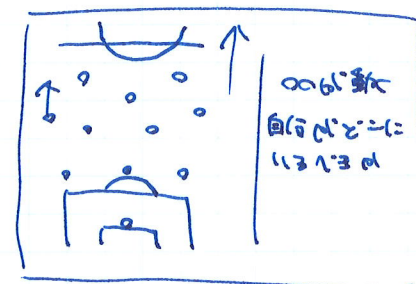
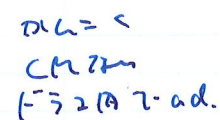
「ラビ」で「ラビ」は
→ 設計図を描く

リーダーに不可欠な能力は「骨格」を造る。

議論を俯瞰して図化する。核心となる構造を、骨格の形に示す。

人は図を描く。図に引き込まれて議論や思考が散漫になってしまう。その過程で、骨格(図)をつくる。これは結果的。
図をつくる過程で議論や思考が明確化していく。

図は自分の手で描く必要がある。



\Rightarrow 「自他共に二つ共通点. と二つある」という

室曰 d' 的 d 是 $\Gamma^* \cap \Sigma = \{d' \in \Sigma \mid d' \in \Gamma^*\}$ 見 2.2 c 3

何に於て命はなかにある? 正解は二つ試重要.

考之于古也

~ like
~ ism



$\pi \wedge \tau = \alpha$ (二横逆(白) = 廿^二, 二目三流) = $\pi \alpha^k$ 大乙.

$\varphi_0 \in C^{\infty}_c(\Omega) = C^{\infty}_c(\mathbb{R}^n)$, $\int_{\Omega} \varphi_0 dx = 1$. φ_0 を用いて $\rho_n(x) := n^{-1} \varphi_0(x/n)$ とおく。